



関西支部報

<http://jac.or.jp/kns/>

藤木祭雑感

金井良碩

昨年9月に、コロナ禍の影響で3年ぶりに開催された「第30回藤木祭」には、日本山岳会120周年記念事業として「引き継がれる山岳祭」を担当される坂井広志副会長(当時)が参加された。日本山岳会では藤木祭をこの事業の一環に位置付け、助成金交付の対象事業とした。この関西支部報には第31回藤木祭の案内もあり、この機会に藤木祭の発端と歴史について述べてほしいとの依頼があった。

「関西支部80年史」に水谷透さん(現支部長)が詳しく報告されているところであり、ここではかいつまんで述べる。平成元年(1989)4月の関西支部評議員会の席上で、当時関西支部監事であった浅野清彦さんから、関西岳人に多大な貢献があった藤木九三氏とRCC(ロッククライミングクラブ)を顕彰する催しの提案がなされ、大阪府と兵庫県山岳連盟にも呼びかけ、この年の10月1日に第1回藤木祭が開催される運びとなった。すでに、昭和38年には、関西岳人たちが集めた寄付金で、彫刻家佐藤久一郎会員の手で作成されたレリーフが芦屋川高座の滝横に設置され、約300人の岳人が集って除幕式が行われていた。

その後、藤木祭は、毎年藤木九三氏の誕生日9月30日に近い日曜日に開催されてきた。平成元年に第1回が開催されたので覚えやすかったが、台風やコロナの影響でたびたび中止され、平成にすると34年になる昨年に、第30回の記念祭が開催された。それらの模様は、「関西支部報」の毎12月号に報告されている。祭の次第は、関西支部の桑田結さんと兵庫県山岳連盟の森川列さんが1年交代で進行役を受け持ち、開会挨拶は山岳3団体が交代して実施、芦屋市長の祝辞を賜り、藤木さんやRCCにかかわる講話を拝聴して懇親会に入るといったものだった。第4回から、芦屋ユースコーラスによる山の歌の披露と記念ハイキングが追加された。

講話は第16回までは藤木さんやRCCに関わる話であったが、だんだんと藤木さんを直接知る人も少なくなり、六甲山の地形や自然の話に代わっていった。この回で講話を担当された当時兵庫県山岳連盟副会長の森川列さんが、講話の講師について詳しく述べられている(支部報116号)。

さて、「日本山岳会百年史」の資料編の「百年史年表」から関西支部ゆかりの人たちの動きを探してみると、JACが設立された明治38年(1905)までには明治21年のウェストン神戸初来日のニュースしか見当たらない。その後、関西支部が設立される昭和10年(1935)までを追ってみると、明治44年第1回大阪有志晩餐会、大正2年京阪神会員有志晩餐会、三高(現京大)山岳会発足、大正3年関西大会、大正4年関西大会、神戸高等商業(現神戸大)山岳会発足、大正7年大阪高等商業(現大阪公立大)旅行部発足、大正9年関西学院高等部(現関学大)登山部発足、大正12年甲南高校(現甲南大学)遠足部発足、大正14年関西大学山岳部、同志社大学スキー部発足の記事がある。同じ年にRCC藤木九三の北穂高岳滝谷～A沢初登攀と、「岩登り術」藤木九三の記載がある。

昭和に入ると、RCC加藤文太郎の積雪期単独登頂や

編集後記	14
自然保護行事案内(10月～12月)	13
山行委員会行事案内(10月～12月)	11
会務報告	11
7 猪熊隆之氏お天気ライブ	10
6 自然保護報告	9
5 登山教室	9
4 クライミング・雪稜シリーズ	9
3 ヒマラヤ登山塾	8
2 山岳古道調査	7
1 支部山行報告	2
支部山行報告	2
藤木祭雑感	1

目次

金井良碩

京大山岳部の岩壁初登攀の記事が多くみられ、浪速高校（現阪大）に旅行部が発足して、昭和4年には関西学生山岳連盟が設立されている。昭和5年には、藤木九三の「雪・岩・アルプス」が発刊され、関西会員集会が開催されるなど、関西では急速に登山熱が高まってきた。昭和6年には京大士山岳会(AACK)が結成された。そして、京大の今西錦司らは、昭和9年に朝鮮半島白頭山に遠征して冬季初登頂した（「山岳66年」の中村勝郎氏による藤木九三追悼文では、この遠征に藤木さんが同行したと記載されている）。また、浪速高校山岳部の今西壽雄らは鹿島槍ヶ岳で、北壁右ルンゼ積雪期初登攀や荒沢南壁・南稜の初登攀を果たしている。そんな中で、昭和10年9月1日に関西支部が設立された。

前述の「山岳66年」の略歴紹介欄によると、藤木さんは大正13年(1924)日本山岳会入会（会員番号893）、そしてその年にRCCを発会させ、昭和8年に解散している。その後、昭和32年日本山岳会評議員、昭和34年日本山岳会顧問を歴任している。水谷関西支部長は、RCC発会100年にあたる2024年には、藤木祭を新たな発想のもとに転換できないかと模索しているとのことである。

第30回の記念藤木祭の報告を寄せた（支部報190号）久保和恵さんは、「閉会の言葉で小畑和人大阪府山岳連盟会長は、今回の30回を目的に藤木祭をどのように、どのような形で引き継いでいくか、主催者、参加者のご意見を伺いながら、残していかなくてはならない、何か良い形で残したい、これからの大きな課題であると締めくくられた」と報じるとともに、本人も、「私は20年近く藤木祭に参加し、携わってきたが、今年の藤木祭は歴代関わって来られた方々の姿はほとんどなく」「また当初より協力いただいた大谷茶屋さんの姿もなく、寂しさは禁じえな

かった」「時代に即した形で引き継がれることを望む」と結んでいる。

30回の歴史を刻んだ藤木祭であるが、私も登山を取り巻く環境も変化し続けていると感じている。大学山岳部や社会人山岳会が、ヒマラヤやアンデスで初登頂を争った時代から、バリエーションルートの開発。冬季、単独、無酸素、女性初などの様々のバリエーションが開拓された。百名山ブームと中高年の山登りや山ガールの出現、トレイルランニングブームの到来など、時代と共に登山環境は変化している。近代登山を日本で発展させた、藤木さんやRCCを顕彰することは重要であるが、変化した登山環境に即した藤木祭の在り方を探し、新たな展開を求めることが引き継いでいく我々の任務であると思う。第31回は、3団体協力の下、安全登山をテーマに講話と展示を実施するが、会員各位の多数参加のもとに、今後の展開について様々なご意見ご提案がなされることを期待する。

「第31回 藤木祭」

**日本のクライミングの父、
藤木九三氏に想いを馳せ、
登山の安全を推進しよう**

日時：10月1日(日) 13:00より

場所：芦屋・高座の滝前広場(藤木九三レリーフ下)

主催 (公社)日本山岳会関西支部、(一社)大阪府山岳連盟、(一社)兵庫県山岳連盟

主管 藤木祭実行委員会

後援 芦屋市 近畿地区山岳連盟

——同時開設 山登りなんでも相談室——

支部山行報告

1. 支部山行報告

支部山行23-2 沢登り例会
「大峰川迫川・モジキ谷」

上森文字

4月2日(日) 晴後小雨

大峰周辺には多くの沢があり以前から挑戦したいと思っていたので、支部報の行事案内を見てワクワクする気

持ちで当日を迎えた。モジキ谷は川迫川溪谷の中にあり稲村が岳へ南西から突き上げる沢で、ドンブリ辻やバリゴヤノ頭への稜線につながる谷でもある。

駐車場で準備をして取水口まで左岸にある巡視道を歩く。途中「毛敷谷」と漢字で書かれた標識を見つけ、「こんな字で書くんや」と思いながら取水口に到着し、谷に降りて遡行を開始する。しばらく進むと川が東へカーブし大きな滝とゴルジュが現れ、ザイルで確保して左岸から登った。上から見ても深い釜があり、滝を直登するな



モジキ谷にて 写真提供：中久保忠伸

ら泳いで渡るようだ。滝を越えると風景が一変し、きれいなナメ滝と小滝が次々と現れる。リーダーから「さあ、ここからはガンガン行ってや」の掛け声でそれぞれ好きなルートで進む。太陽の光でキラキラした川を遡行し、春の花を見つけながらさぶさぶ歩く。しかし「油断したらダメだ」という沢の神様からのドボンの洗礼を受け、全身ずぶ濡れになった。昼食時に先程までの快晴が嘘のように雨が降り始め、リーダーの判断でカッパを着て下山を開始。獣道や巻き道を下りながら無事に取水口に到着。

【コースタイム】

駐車場9:50～取水口（入渓点）10:00～ゴルジュ10:11～標高点（896m）11:59～ゴルジュ13:09～取水口13:32～駐車場13:40

【参加者】

中久保忠伸、立野里織、坂本明子、上森文字 計4名

支部山行23-4 月例会（4月）
「六甲・イヤガ谷」

井川浩彰

4月23日（日）晴

イヤガ谷は六甲の秘境と呼ばれるそうだ。出発点の鶴越駅からいきなり広大な墓地が現れ、脱出に手間取るが、何とか行場のある沢筋に入ることができた。何度かの渡渉と沢と側道の混じる道を経てやっと行場に至る。道具類が置いてあり行者の気配が感じられる。

行場から元来た道を引き返すも、次の進路が見つからず、結果、沢の本流の左岸を遡行することとなる。微かな踏み跡や要所にトラロープがある。さらに進むと大きな高巻きとなり、目印の帝釈堰堤を見下ろす場所で昼食休憩、既に正午になった。高度をゆっくり下げながら沢に戻り、遡行をしばらく続ける。時間も押してきたので、尾根道を目指すこととなり、二度目の藪漕ぎでやっと登

山道に出ることができた。途中の君影ロックで写真休憩。合流予定の妙号岩付近で兵岳連のクライマーが待っていてくれた。鈴蘭台駅で解散。

後日談だが、行場からの行く手は、本流手前の右岸の尾根が正解で、私たちはより険しい沢筋を選択したようだ。自分はこのルートは人任せで、改めてメンバーシップとは何か考えさせられた。反省点はあるものの、イヤガ谷は本当に「六甲の秘境」で、新緑は美しく、植物談義もあり、思い出深い山行となった。

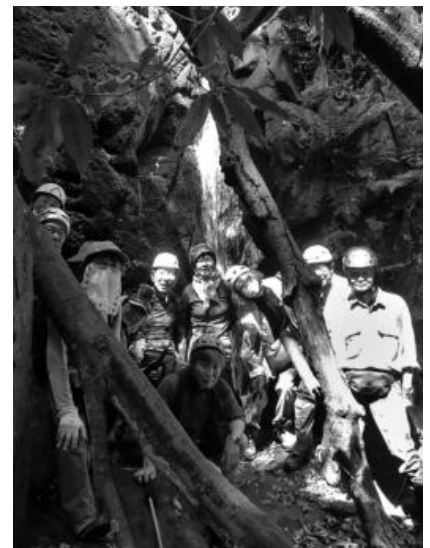
【コースタイム】

鶴越駅9:20～行場10:25～本流出会10:50～帝釈堰堤の上部12:00～登山道合流13:20～君影ロック14:20～鈴蘭台駅15:45

【参加者】

野村 康、豊田哲也、池尻英明、前田正彰、久保和恵、新本政子、岩崎しのぶ、山内幸子、永井 和、岡野武司、上森文字、井川浩彰

計12名



イヤガ谷の行場にて 写真提供：豊田哲也

支部山行23-7 青春ハチマル山歩き 関西の巨樹巡り①
「関西最大！十五社の楠と万葉集の妹背山」

前田正彰

5月11日（木）晴

新しい企画の初回の感想文を作成する名誉を頂いたのは、この日「ハチマル」に一番近い者というリーダーの御指名によるものだった。笠田駅前に集合した16人の平均年齢は真に78才とか。準備体操をして街中を進むとすぐに前方に若葉が生い茂った大木が見えた。『十五社の楠』だ。樹齢600年以上と案内板にあった。樹高20m、目通り幹囲14mという。記念写真を撮って先へ進む。今回の「山歩き」、「山」としては「背ノ山」と三等三角点のある「妹背山」（点名は『鉢伏山』）のみ。山道も全体の30%程であとは全てアスファルト道だった。それでも二つの山への道は一寸したジャングルの感があった。その周囲を含め道中全体を通して紀州らしくミカンと柿が主体の畑が広がっており一部ではバナナも植えられていた。時折吹く涼風にもミカンの清楚な香りが爽やかに感じられ



十五社の楠にて 写真：前田正彰

た。山以外に歴史的に貴重な小田井灌漑用水路『龍之渡井』、江戸時代の高名な医者の華岡青洲の『春林軒』、『旧名手宿本陣』や『大賀蓮』を栽培している池なども見ることが出来、いつもの山行とは趣の違った歩きを楽しませてもらうことが出来た。

【コースタイム】

笠田駅10:15～十五社の楠10:40～背ノ山第二峰11:40～妹背山(背ノ山)12:40～青洲の里14:10～名手駅15:00

【参加者】

茂木完治、岡田輝子、新本政子、苅部聖子、黒田守彦、坂口和子、辻和雄、橋本圭之輔、福山茂光、松村文子、水谷透、黒岩敦子、小林三喜男、田中アキエ、淡野隆久、前田正彰 計16名

支部山行23-9 海外登山 「マレーシア最高峰キナバル山」

岡谷雄一郎

5月24日(水) 晴

自身初の海外登山。前日は興奮と期待で眠れず、誰よりも早く関空出発ロビーに到着。最終目的地コナキタバルに到着したのが現地時間22時40分。赤道直下の国、マレーシア、夜でもムツと蒸し暑い。早々と明日の準備を済ませベットに入ったのは夜中過ぎ。明日からはいよいよキナバル登山スタート!

5月25日(木) 晴

朝6時起床。専用バスでキナバル国立公園へ向かう。現地ガイドのJASOONさんと合流して「Timpohon Gate_標高1,867m」より登山開始。みなさんワクワクの笑顔だ。登山道はさすが世界遺産だけあって整備され、Shelterと呼ばれる休憩所が各所に設けてありトイレは水洗、ゴミも出せる。道中では、さまざまな花やウツボカズラ、リスが出迎えてくれて我々を飽きさせない。標高2,200m付近から鬱蒼としたジャングル地帯へ突入。日

本ではまず見ることができないキナバルならではの風景だ。午後4時すぎ、標高3,000メートルを超える。「あともうちょっと!」ガイドさんの言葉に励まされながらスタートして7時間30分、ついに標高3,272m Laban Rataに到着。待ちに待った夕食タイムだ。急登を登ってきた身体はエネルギーを欲していて何を食べてもおいしかった。夕食を終え清潔なベッドが15ほどある小屋へ向かいベッドに入ったのが19時。私は強烈な頭痛や吐き気に襲われて一睡もできず。この時ほど、みなさんのイビキが羨ましかったことはない。

5月26日(金) 晴

早朝1時30分起床。軽食を食べたあと(私は何も食べることができず)出発。緊張のためか頭痛吐き気もだいぶマシになってきた。ヘッドランプの光の波が一斉に動き出す中、アドバイス頂いた呼吸法でゆっくりと登っていく。標高差823mを登ればもう頂上だ。いつも登っている六甲山とほぼ同じだから焦ることはない。スタート地点から7.5km標高3,800m地点に到着。日本では体験不可能な未知の領域に登ってきたのだ。なんだかとても誇らしい気分になる。夜が明け壮大な景色が見え出す。8.0km地点 標高3,929mに到着。ガイドのJASOONさん「あと40分ほどですね」「え!まだあるの!?!」頂上と思っていたのは勝手な私の思い込みで、雲に隠れていた本当の山頂ローズピークが遥か先に見え出す。「くそー!頑張れ!もうちょいだ!」独り言を言いながら呼吸を整え登っていく。ついに4,095mキナバル山頂に立つ。「やった!!」頂上はさすがに風が強く寒い。記念撮影後、即下山開始。途中で見たボルネオ島を一気に見下ろす壮大な景色は一生忘れないだろう。下山中よくぞこの急登を登ってきたものと思った。見えない夜だからこそ登り切ることができたのかも知れない。長い下山の道中、登山者のみなさんに声をかけていく。これがとても楽しかった。大半が地元マレーシアから、他オーストラリア、一組だけ日本人のグループにも出会った。ついにスタート地点Timpohon Gateに



ローズピークとガイドのJASOONさん(左) 写真提供：水谷透

帰ってくる。お疲れ様でした！2日間お世話になったJASOONさんとお別れして、近くの中華レストランでみんなとカンパイ！ホテル到着後、地元で有名な大衆食堂でのマレーシア料理も格別に美味だった。

5月27日(土) 晴

最終日フリータイムも忘れられない体験だった。ボルネオ島の自然が生み出すご馳走の数々…世界一美味しかったマンゴーに香辛料、伊勢エビまでの食材がズラリと並ぶマーケットの活気と楽しさ。そして・・・ボルネオ島でもトップを誇る高級中華レストランで食べたマンダローブガニの味は格別で一生忘れられないだろう。

【コースタイム】

5月25日 登山口10:11～PANDOK LOWII 12:10～12:35
～山小屋17:40

5月26日 山小屋2:30～標高3,800m 5:30～標高3,929m
6:00～キナバル山ローズピーク7:04～山小屋9:57～10:55
～登山口15:32

【参加者】

水谷 透、豊田哲也、高田康弘、岡谷雄一郎、(以下岐阜支部)梅田直美、篠田喜美子 計6名

支部山行23-11 六甲山を歩く
「春の高山植物を楽しむ」

岩崎しのぶ

5月27日(土) 薄曇り

六甲ケーブル下駅横の舗装道からスタート。高齢化社会を象徴するような老人ホーム群を横目に登り、やがて登山道へ。木陰だがやはり登りは暑い。小鳥の囀りに慰められながら重い足を運ぶ。足元には草いちごが熟しているが、皆あまり気に留めない。おこぼれを私が頂く。

3本の送電線を通ると目の前に大阪湾が広がった。「亡兄が好んで登った六甲山、油コブシも歩いたであろう急坂を、兄を思いながら山上を目指した。眼下に広がる神戸港は陽に輝き、ホッと安らぎを覚える」会員さんの感想です。

やがて油コブシ展望台に到着。握りこぶしを挙げ集合写真を撮る。エイッヤ！また力が湧いて来た。展望岩で小休止。六甲ケーブル頂上駅付近を通過するが、稜線まではまだ遠い。神戸CC手前で昼食タイム。ウグイスが、上達した鳴き声を得意げに披露している。

ここでリーダーから、コース予定変更のお知らせあり。有馬温泉への下山は止めて、六甲高山植物園をゆっくり楽しむとのこと。誰も異論無し。800円の入園料分しっ



油コブシにて 写真提供：前田正彰

かり見せていただきます！！

植物園では様々な高山植物が咲いている。スタンプラリーを楽しみながら観察会をスタートする。クリンソウのピンクやヒマラヤの青いケシが色鮮やかだ。私の大好きなおオヤマレンゲにも出会えて大感激。

1時間半の観察会はあっという間に終わり、ここからバスで六甲山上駅へ、ケーブルに乗り継ぐ。

山道あり、植物園ありと多彩な顔を持つ山でした。

【コースタイム】

六甲ケーブル下駅9:46～登山口10:01～油コブシ展望台11:12～油コブシ下山口11:58～13:14六甲高山植物園東入口14:50～六甲山上バス高山植物園前14:59～六甲山上駅15:12～六甲ケーブル下駅15:30

【参加者】

松仲史朗、前田正彰、青木 昭、橋本圭之輔、上田典子、淡野隆久、金川清弘、池尻英明、横山規江、久保和恵、宇都宮浩、山西和美、福山茂光、八田吉子、岩崎しのぶ 計15名

支部山行23-12 月例会(5月)
「和束・鷲峰山の清水谷川(沢初級)」

寺田昭弘

5月28日(日) 曇時々晴

曇りで少し蒸し暑い出発となった。時間短縮の為、入渓地点の近くまで車にて移動。清水谷川下流部は比較的緩やかで時折茶畑の中を抜けるコースとなり、参加者それぞれが川中を歩いたり、ほとりを歩いたり景色と谷筋の快い風を感じながら、二俣まで進み、二俣で上部にある金胎寺行場の中の五光の滝、千手の滝を目指し右俣へと。

早速右俣入口より、ロープを出して右岸小滝をクリア。右俣へ入ってからは小滝が続く沢登りらしくなってきます。巻道もしっかりある中、ロープで安全確保をし、果

敢に滝登りにチャレンジ。気持ちではあつという間に五光の滝に到着。ちょうど滝に木々の間より太陽の陽が差し込み虹も一緒に記念撮影。軽く昼食を済ませ、沢装備も解除し次は行場めぐりへと。少し逆行となりますが、上の千手の



清水谷で遊ぶ 写真提供：茂木完治

滝を見学、胎内めぐりを行ない、生まれ変わったところで登りの行場へ。鎖場や岩場の感触を楽しみながら急坂を登り周回路起点の迎え行者まで。後は比較的歩きやすい道を進み金胎寺で休憩、すぐ近くの鷲峰山山頂をピストン。帰りは行きとは違う広大な原山の茶畑の景色を眺めながら出発地点へ戻りました。

初めて企画させて頂きました関西支部の山行で不向き届きな所もあったかもしれませんが、また楽しんでいただける山行を企画できればと思いますので、よろしくお願いたします。

【コースタイム】

原山9：50～清水谷川二俣11：00～五光の滝13：00～千手の滝～五光の滝13：35～金胎寺行場～金胎寺15：10～鷲峰山15：40～原山16：40

【参加者】

茂木完治、中久保忠伸、上森文子、藤原啓恵、立野里織、岡野武司、坂本明子、寺田昭弘 計8名

23-13 第19回関西のアルプス踏査 「加美アルプス」

重廣恒夫

6月11日(日)曇

大阪からは足の便が悪いので車で道の駅「杉原紙の里・多可」に向かう。

道の駅から青玉神社を左に見て林道を進み、橋の手前の空地に車を止めた。林道をさらに進み終点から稜線を目指す。地図の道形は、間伐材と杉の枝葉で覆われているのと、急斜面で登り難い。稜線に出てから南下し、北雄岳(800m)、(潤沢山(790m)を経て奥雄岳(四等三角点小屋ヶ谷842.2m)から西雄岳(850m)を結ぶ稜線からは、

北に三国岳・槍ヶ峰、南に千ヶ峰に至る稜線が望まれるのだが、今日は霧に覆われ眺望がきかない。西雄岳からは往路を峠まで引き返し、駐車場へと下った。夜は久しぶりのテント泊だったが夜半から雨となった。

6月12日(月)雨

駐車場から右の林道に入り7合目(登山口が9合目で頂上近くが1合目)から沢筋に入り、途中大玉林道への分岐を経て三国峠に到着する。峠からは緩やかな斜面となり途中林道2本を横切って山頂(三等三角点三国岳855.07m)に着くが、生憎の天候で展望はない。

三国峠にあった山名板(表銀座)の、「がきだけ～つばくろ～おてんしょう」と樹林帯を西南に進む。尾根筋の細い踏み跡と朽ちかけた道標頼りの登り降りを繰り返すが、常にコンパスで方向を確認しルートを逸脱しないようにした。つばくろ(4等三角点梅ヶ畑750.0m)から南下し、槍ヶ峰(846m)の激登りに最後の力を振り絞った。

槍ヶ峰から中岳(四等三角点貝坂 807.8m)、南岳を通過して、前日の峠(多可町と神河町を結ぶ)に降り立ち、昨日の歩き難い急斜面を下り駐車場に戻った。



三国峠の山名板 写真：重廣恒夫

【コースタイム】

11日、駐車場10：30～峠12：20～北雄岳13：17～奥雄岳13：49～西雄岳14：32～駐車場16：56

12日、駐車場6：48～三国峠8：38～三国岳9：29～槍ヶ峰12：04～駐車場13：57

【参加者】

豊田哲也、永井和、野村康、中村三佳、重廣恒夫

計5名

支部山行23-17 例会(6月) 50歳未満限定 「奥ノ深谷」

今宿瑛三郎

6月25日(日)曇

今回は年齢を絞って例会をするのがいいと茂木さんに



奥ノ深谷 写真：今宿瑛三郎

アドバイスをを受け、50歳以下で募集し経験豊富な寺田さん、鷺本さんに同行して頂く形で、奥ノ深谷に入渓することにしました。関西起点沢登りルート100選では「2級、中級」と記載があり「美瀑と淵を連続させ、その美しさは訪れる者を魅了する」と紹介されています。

その紹介文に違わぬ透き通り、やや青みを帯びた水と、大きく豪快な滝は自然の美しさ、雄大さを感じさせてくれました。

廻行終了点は登山道と合流しており、快適に下山することが出来るのもこの沢の魅力であると思います。

人気のある沢で迷うようなところはないですが、増水の影響もありルート取りの難しいところや危なそうな高巻きは積極的にロープを出していく山行となりました。

基本的な登攀時の確保や、トラバース時のランニングビレイ、高巻き後の懸垂下降など、ロープワークの基本はすべて使うような状況で、中級に分類されているのも頷ける沢でした。自分とは違うルートを取った人へのフォローの仕方、支点ポイント、確保をどの方法で取るか等、とても勉強になりました。ご協力いただきましたベテランのお二人には重ねてお礼申し上げます。

【コースタイム】

坊村駐車場8:00～白滝谷との分岐9:00～4段40m大滝11:00～登山道出合13:00～坊村駐車場15:00

【参加者】

今宿瑛三郎、立野里織、鷺本晴香、寺田昭弘 計4名

2. 山岳古道調査

支部山行23-8 第25回山岳古道調査
「吉野道」冬野越

宇都宮 浩

実家が福岡で、北九州支部時代に世界遺産宗像の古道調査に参加したこともあり、歴史を感じながら歩くことができた。

スタートは、蘇我馬子の墓といわれる石舞台古墳。多武峰とうのみねへ向かう途中、大化の改新で藤原鎌足が蘇我入鹿の首に追われて逃げたとされるけつわかき気都和既神社があり、鎌足が腰かけたという岩もある。

天武天皇は、壬申の乱前に吉野に隠棲していたので、天皇に因む史跡も多く、久斯神社には大名持大神、少彦名大神とともに天武天皇が祀られている。福岡にもおおなむち大己貴神社があり、『日本書紀』によれば神功皇后が三韓征伐の際に「大三輪神」を祀ったのが始まりとされる。天武の妃の一人尼子娘は宗像氏の出身で、宗像大社の弁天様(市杵島姫神)は天照大御神と素戔鳴尊の誓約で生まれた宗像三女神の一柱で、大己貴神は、実は出雲大社や大三輪神社の祭神である大国主神(素戔鳴尊の子孫)のことである。

皇親政治の天武の時代から奈良時代に入ると、天武の孫長屋王を失脚させた藤原氏が再び力を持つようになる。蘇我氏の全盛時代から藤原氏の時代へと、歴史の変遷を感じさせるコースだった。標高725mの竜在峠から滝畑に下り、滝畑の滝を見て吉野川へ出た。蓮如が創建した本善寺に立ち寄ったあと、ゴールの吉野神宮駅に到着。



竜在峠にて 写真提供：永井 和

【コースタイム】

石舞台バス停 9:20～西口茶屋跡11:00～冬野11:38～竜在峠(昼食)13:10～13:48滝畑～本善寺 16:10～吉野神宮駅 16:28

【参加者】

中久保忠伸、野村 康、松仲史朗、新本政子、岩崎しのぶ、薦田佳一、中川委紀子、山西和美、水谷 透、宇都宮浩、関戸京子、永井 和 計12名

支部山行23-14 第26回山岳古道調査
「吉野道」宮奥越

水谷 透

6月17日(土) 晴

私の好きな曲に「道行・初音旅」がある。浄瑠璃「義経千本桜」の一節で、静御前が吉野にいる義経に会うため吉野道に行く場面の曲である。私の吉野道への関心はここから始まった。

近鉄桜井駅からタクシーで宮奥ダムに向かう。水辺公園すぐそばの「清照地藏尊」の道標、大峠への分岐にある「女坂伝承地道」の碑を確認し、林道に入る。峠への山道との分岐に亥神社跡があり立ち寄る。立派な石造りの鳥居はあるが、社は廃墟となっている。

峠直下で左へ続く踏跡に入り込んでしまい、緩い滑りやすい斜面を登り、峠に出た。正しい道を確認してみたが、ほんのわずか手前で間違っただけであった。峠から竜門岳に向かう。峠道では人に出会わなかったが、竜門岳では幾人かの登山者に会う。



竜門岳にて 写真提供：永井 和

昼食後、峠に戻り三津へ下る。すぐに舗装路となり、東三津の少し手前に八王子社がある。集落には家屋がまばらにあるが、すべて廃屋のようだ。西三津への小さな尾根を乗越すところに墓地があり、その傍らに「右たふのみね 左おかでら」の道標があるが、位置的におかしく他所から移されたものらしい。

西三津集落を過ぎ、細峠の取り付きを確認し、鹿路トンネル南側入口に降り立つ。ここから上市まで長い車道歩きが始まる。西谷集落の手前に、自然石に「左ひらお 右よしの道」と刻まれた道標がある。松尾芭蕉はここで平尾へと向かったようである。佐々羅、峰寺を過ぎ、浄瑠璃「妹背山女庭訓」の舞台である妹山が見えると吉野川も近い。上市の大師山妙法寺に立ち寄り、午後の暑い日射しの下の長い道路歩きが終わった。

【コースタイム】

宮奥ダム9:50～三津峠11:16～竜門岳12:26～三津峠13:10
～八王子社13:43～新鹿路トンネル前15:04～西谷15:45～
旧伊勢南街道16:33～大師山寺17:16～大和上市駅17:31

【参加者】

新本政子、岩崎しのぶ、上森文子、宇都宮浩、小林又七、
薦田佳一、永井 和、野村 康、松仲史朗、水谷 透、山西
和美 計11名

3. ヒマラヤ登山塾

第15回ヒマラヤ登山塾

「第3回グレート・ヒマラヤ・トラバース」

重廣恒夫

6月25日(日) 於：大阪梅田第2ビルB4

第3回はクーンプ山群～ロールワリン山群～ジュガール・ランタン山群で行った。今回は1回目、2回目に参加した重廣・吉井に加えて新たに飯田邦之(68歳)と、別動隊として、中村三佳(59歳)・味岡四郎(62歳)が参加した。

エベレスト街道の玄関口となるルクラからキャラバンが始まったが、トレッカーの数はコロナ前に戻ったように見えた。重廣はロブチェで体調を崩し、同じくゴラクシェップから下山してきた味岡と共に一足先にナムチェバザールに下った。

本隊2名と中村は順調に行動し、エベレストBCを訪問した後ゴーキョを経てターメに下った。ターメでは新本さんから連絡を受けていたネパールヒマラヤ踏査の第一人者大西 保氏のモニュメント訪問は吉井と中村がおこなった。本隊と別れた中村はナムチェバザールで重廣と味岡に合流しカトマンズに戻り、4月29日中村・味岡は帰国した。中村と別れた本隊2名は予定通りテシ・ラブチャを越え、シミガオンを経てコンガルに下った。5月2日、カトマンズを車で出発した重廣は10時間かけてコンガルで本隊と合流し、翌日から後半の踏査を開始した。

後半の踏査は順調に推移したが、最後のティルマンのゴル手前で悪天候のためルートを見失い2日間のロスがあった。その後、日々の行程を伸ばして24日シャブルベシに到着して踏査を終えた。最後のランタン谷通過時は、2015年の地震による被害は想像をはるかに超えており胸が痛んだ。

【参加者】

新本政子、池尻英明、小黒節郎、賀集 信、久保和恵、辻 和雄、豊田哲也、永井 和、中川委紀子、中村久住、中村三佳、野村珠生、野村 康、橋本圭之輔、深澤優子(以上関西支部)中谷康司、松尾みどり(以上本部)、高雄文雄(日本山岳会)、四方寛之、西岡睦子(元登山教室)、美崎丈和、村上輝幸(神戸大学山岳部) 計22名

4. クライミング・雪稜シリーズ

23-5 クライミング初級 4月27日(木)

活動場所：蓬萊峡

参加者：吉村恵利、上森文子、江村俊也、茂木完治 計4名

23-10 クライミング初級 5月25日(木)

活動場所：蓬萊峡

参加者：吉村恵利、上森文子、江村俊也 計3名

※以下は中止

雪稜シリーズ 23-1天候不良のため、23-6参加者なしのため

クライミング初級 23-15雨のため

5. 登山教室

2023年度第1回登山教室入門

6月10日(土)

座学：「山登りを始めるために」「山の歩き方」「山岳保険について」 講師：重廣恒夫

【参加者】

坂ノ下ひとみ、豊田哲也、中村三佳、野村 康 計4名

2023年度第1回リーダー養成講習会

6月18日(日)

座学：「登山リーダーの任務と責務」「リーダーの安全

管理技術」 講師：重廣恒夫

【参加者】

豊田哲也、中久保忠伸、小黒節郎、永井 和、野村 康、坂本明子、深澤優子、上森文子、鷺本晴香 計9名

6. 自然保護報告

令和5年4～6月

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫

◆日時：2023(令和5)年4月16日(日)9:30～15:00

気象：晴・時々雨

活動エリア：45林班ろ-02

活動内容：地域環境保全タイプ(里山林保全;倒木処理、林床整備、溪流清掃)

参加者：斧田一陽、菊山美紀子、黒山泰弘、工藤貴士、武田壽夫、宮本 廣、山本國夫、兪 靖函 計8名

◆日時：2023(令和5)年4月27日(木)9:30～15:00

気象：晴

活動エリア：45林班ろ-03

活動内容：地域環境保全タイプ(里山林保全;倒木処理、林床整備、溪流保全)

参加者：斧田一陽、黒山泰弘、武田壽夫、当山清之、中川義行、宮本 廣 計6名

◆日時：2023(令和5)年5月4日(木)9:30～15:00

気象：晴

活動エリア：45林班ろ-03

活動内容：地域環境保全タイプ(里山林保全;倒木処理、林床・作業歩道整備、溪流保全、モニタリング調査区設定)

参加者：石田美和、斧田一陽、菊山美紀子、倉谷邦夫、黒山泰弘、武田壽夫、寺田昭弘、当山清之、春名浩一、中川義行、宮本 廣、山本國夫 計12名

◆日時：2023(令和5)年5月11日(木)

気象：晴

活動エリア：45林班に-03

活動内容：地域環境保全タイプ(伐り離し木の枝切り・玉切り・棚積み、林床整備)

参加者：斧田一陽、菊山美紀子、武田壽夫、当山清之、

中川義行、春名浩一、宮本 廣 計7名

◆日時：2023(令和5)年5月21日(日)9:30～15:00

気象：晴

活動エリア：45林班ろ-03、ほか

活動内容:地域環境保全タイプ(里山林保全;倒木処理、林床整備、溪流保全、作業道整備)

参加者(会員)：内海宏一、大本孝子、斧田一陽、工藤貴士、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、山本國夫

計8名

◆日時：2023(令和5)年6月1日(木)9:30～14:00

気象：薄曇り

活動エリア：45林班ろ-03、ほか

活動内容：自然歩道整備(水切り溝の掘り直し)

参加者：石田美和、斧田一陽、倉谷邦雄、武田壽夫、竹歳美紀子、田村綾子、寺田昭弘、当山清之、宮本 廣、(体験)金川由紀子、福本夏子

計11名

◆日時：2023(令和5)年6月18日(日)9:30～15:00

気象：晴

活動エリア：44林班は-01

活動内容：地域環境保全タイプ(里山林保全;倒木処理、林床整備、モニタリング調査区設定)

参加者：大本孝子、斧田一陽、武田壽夫、湊 亮、春名浩一、山本國夫

計6名

◆その他

会報「あかがし6号」を発行

令和5年4～6月

「東おたふく山草原復元活動」活動報告

田島聖子

◆日時：2023(令和5)年4月5日(水)

気象：曇

活動内容：刈払い機と手刈りによりBエリアのササの全面刈り、刈取ったササの集積

参加者：斧田一陽、菊山美紀子、桐村登美枝、田島聖子

4名

◆日時：2023(令和5)年5月17日(水)

気象：晴

活動内容：刈払い機と手刈りによりA1エリア・Cエリアの眺望点から登山道までの通路部分、及びD1エリアとワレモコウ園地のササ刈り、刈取ったササの集積
参加者：斧田一陽、菊山美紀子、田島聖子、野村 康
4名

7. 猪熊隆之氏お天気ライブ

猪熊隆之氏の「山の天気ライブ授業」

加藤芳樹

机上講義

8月5日(土) 16時30分～18時30分

会 場 セルロイド会館301会議室

関西支部では3回目を迎えるヤマテン代表猪熊隆之さんのお天気ライブ授業である。

猪熊さんが代表を務めるヤマテンは、いうまでもなく、山の天気予報においてはわが国では最も信頼されている山岳専門の気象予報サービスである。また、ヤマテンは多くの海外遠征隊においても、登頂成功を左右する気象情報を提供し、もはや欠かせない存在となっている。

机上講習は、猪熊さんに用意していただいた資料により、高気圧・低気圧による風の向きや、主に上昇気流の発生を生み出す山の天気の仕事、雨の降る仕組み、雷の発生の仕方、さらには気象を予想することによる遭難防止などを解説していただいた。

約2時間という制約の中であったが、猪熊さんの話は、やはりわかりやすい。ここでは詳しい内容に割くスペースがないので、猪熊さんの著書で学んでいただきたい。

【参加者】

井川浩彰、江村俊也、岡田輝子、加藤芳樹、荻部聖子、坂本明子、柴田美生子、永井 和、中久保忠伸、中村三佳、野村 康、深澤優子、水谷 透、茂木完治(以上関西支部)、猪熊隆之(講師)、一般9名
計24名

山の天気ライブ授業

8月6日(日) 晴 9時30分～11時30分

会 場 天王寺阿倍野ハルカス300展望台

観天望気の会場は、現在のところ全国一位の高さを誇る阿倍野ハルカスである。高いとはいえ高さ300m。山でいえばかなり低いので、観天望気としては条件が良くないのでと勘ぐっていたが、ハルカスには360度の展望があり、大阪を取り巻く地形が一目でわかるため、地

形と気象の関係を学ぶには良い場所であることが、猪熊さんの説明を聞くことでよくわかった。

夏の晴天の朝なので、空に浮かぶのは積雲(綿雲)ばかりで、いろいろな種類の雲が見られるわけではなかったが、南東方向(大和葛城山方面)に積乱雲ができかかっていた。この日は沖縄あたりに台風が居座っており、机上講習で教えてもらった通り、風は南東方向から吹いていた。そちらには大峰山脈が横たわっており、山脈にぶつかった風が上昇気流を発生させているのだ。大阪湾(海)は基本的に平面なので、陸地と比べて上層気流が発生しにくく上空には雲がなかった。説明によれば、淀川沿いは海からの風の通り道となり、その奥に位置する京都方面には積乱雲が発生しやすいという。猪名川が通る池田方面、武庫川が通る宝塚方面も同様のことが言えるようだ。

講義は午前中だけなので、空に大きな変化はなかったが、机上の理論だけではなく、実際に雲を見ながら解説

してもらおうと、やはり理解度が増す。

【参加者】

井川浩彰、上森文子、江村俊也、岡田輝子、加藤芳樹、柴田美生子、永井 和、中村三佳、深澤優子、水谷 透、茂木完治(以上関西支部)、猪熊隆之(講師)、一般5名

計17名



写真：加藤芳樹

2023年10月～12月 山行委員会行事案内

※後尾に申込み先連絡先掲載【いずれも締切厳守】

23-38 月例会(10月)
「キャニオニング体験」

日 時：10月8日(日)奈良県川上村入之波
青空ファンベース 11:00(大和上市駅10:00送迎あり)

コース：本沢川・白倉又谷

費用：9800円(ガイド・装具レンタル・保険・税込)

申込み：9月22日迄(担当：上森文子)

23-39 六甲山全溪谷踏査

「芦屋川本流」

日時：10月21日(土)阪急芦屋川駅改札前9:00集合

コース：芦屋川右岸新道より旧浄水場付近に入溪～弁天滝～芦有ゲート

申込み：10月14日迄(担当：茂木完治)

23-40 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日時：10月26日(木)阪急宝塚駅8:30集合

申込み：10月19日迄(担当：江村俊也)

23-41 六甲山全溪谷踏査

「烏原川本流から菊水山南ルンゼ」

日時：10月28日(土)神鉄有馬線鶴越駅9:00集合

コース：旧浄水場入溪～烏原川本流～菊水山南ルンゼ～菊水山～鈴蘭台駅

申込み：10月21日迄(担当：茂木完治)

23-42 沢登り例会

「巨瀑が出迎え大峰白川又川の岩屋谷」

日時：10月28日(土)～29日(日)

詳細は担当者に問い合わせください

申込み：10月21日迄(担当：中久保忠伸)

23-43 青春ハチマル山歩き 関西の巨樹巡り

「篠山街道の巨樹達を訪ねる」

日時：11月2日(木)JR福知山線柏原駅9:10集合

コース：柏原駅～木の根橋～鬼の架け橋～追手神社の大樫～寸原の大櫨～JR丹波大山駅

申込み：10月26日迄(担当：茂木完治、申込は岡田輝子)

23-44 六甲山全溪谷踏査

「平野谷左岸支流と再度谷右岸支流」

日時：11月5日(日)高速神戸駅9:00集合

コース：タクシー平野町下車～峠～平野谷下降～左岸支流～再度谷右岸支流下降～再度谷～阪急花隈駅

申込み：10月30日迄(担当：茂木完治)

※懸垂下降経験者のみ

23-45 わんぱく探検

「五月山(千代山314.9m)」

日時：11月12日(日) 阪急池田駅9:30集合

対象：一般の親子(子供は幼稚園～小学生を対象)含む

申込み：10月29日迄(担当：豊田哲也)

23-46 月例会(11月)

「生駒古道・辻子谷越、宝山寺参道、暗峠」

日時：11月19日(日) 近鉄石切駅 南出口 7:45集合

コース：石切駅～興法寺～経塚～暗峠～神津獄コース～枚岡駅

申込み：11月10日迄(担当：野村 康)

23-47 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日時：11月23日(木)阪急宝塚駅8:30集合

申込み：11月16日迄(担当：江村俊也)

23-48 六甲山全溪谷踏査

「葎川(おがわ)左俣」

日時：11月28日(火)神戸市営地下鉄新神戸駅1F出口9:00集合

コース：新神戸駅～法徳寺～葎谷左俣～555m峰～新神戸駅

申込み：11月19日迄(担当：茂木完治)

23-49 月例会(12月)クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日時：12月3日(日)阪急宝塚駅8:30集合

バス運休のためタクシーで行きます

申込み：11月26日迄(担当：江村俊也)

23-50 古道調査 第30回山岳古道調査

「智頭往来志戸坂峠・釜坂峠」

日時：12月9日(土)～10日(日)

山陽と山陰を結ぶ因幡街道を歩きます。

あわくら温泉に一泊。詳細は参加者に連絡します。

申込み：11月22日迄(担当：永井 和)

23-51 道迷い講習会

「遭難学エキスパートの地図とコンパスの実技講習」

日時：12月23日(土)JR宝塚線道場駅9:00集合

講師：青山千彰

(山岳遭難研究者/「山岳遭難の構図」著者)

必要品：プレートコンパス、鉛筆、A4用クリップボード、20cm以上の物差、地図は用意します

申込み：12月16日迄(担当：茂木完治)

23-52 六甲山全溪谷踏査

「須磨浦公園・堺川と二ノ谷下降」

日時：12月29日(金)JR須磨浦公園駅9:00集合

コース：須磨浦公園駅～堺川～旗振山～二ノ谷～須磨浦公園駅

申込み：12月22日迄(担当：茂木完治)

ステップアップ登山教室 一般募集

(会員・準会員・会友も参加可能)

申込先：豊田哲也、中久保忠伸(2人で担当)

受講料：4か月で8,000円。座学受講時に徴収。

※詳細については関西支部ホームページをご覧ください。

- ・初級(登山に必要な知識・技術・体力養成)
 - 9月9日(土) 奥山
 - 10月14日(土) 焼山、西鎌倉
 - 11月11日(土) 天神岳～黒谷山
 - ・中級(初歩の沢歩き、岩場の通過と登攀具の使用)
 - 9月3日(日) 丹生山系・柏尾谷
 - 10月15日(日) 丹生山系・屏風川
 - 11月18日(土) 丹生山系・枯木ヶ池谷
 - ・上級(初歩の岩登り)
 - 9月7日(木) 金毘羅・北尾根
 - 10月5日(木) 裏六甲・不動岩
 - 11月9日(木) 六甲・キャッスルウォール
 - ・登山教室座学(初級・中級・上級) 12月16日(土)
- ※上記とは別に6月より入門コースを開設
- ・入門コース(これから山登りを始めたい人向けの登山教室)

受講料：6月より4か月で8,000円

担当：重廣恒夫

9月2日(土) 六甲山

12月3日(日) 座学「コンパスと地図の使い方」「低体温症にならないために」

・2023年度第4回リーダー養成講習会

12月17日(日)

座学：「積雪期における登山装備と登山技術」

講師：重廣恒夫

申込み先一覧

- 上森文子 09088225321@docomo.ne.jp
- 江村俊也 tobi.osaka@me.com
- 岡田輝子 smiler8823teruko@true.ocn.ne.jp
- 豊田哲也 zat04126@nifty.com
- 野村康 n0mura87.32@nifty.com
- 永井和 nagai.kazu@gmail.com
- 茂木完治 yib03510@nifty.com
- 中久保忠伸 tadanobu3772822@gmail.com
- 関西支部 kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

2023年10月～12月 自然保護行事案内

- ◆本山寺山森林づくりの会 10/5(木)・15(日)・22(日)*、11/2(木)・11/9(木)*・19(日)・30(木)*、12/7(木)・17(日)・21(木)* (*は臨時)

集合はJR高槻駅北側アルプラザ前8時40分

- ◆東おたふく山草原復活活動

活動日：11/18(土)晩秋の全面刈り①、12/9(土)晩秋の全面刈り②

観察会：10/21(土)、11/20(月)、12/16(土)

集合はJR芦屋駅南口8時30分

問い合わせ・申込み先

斧田一陽(全般)

☎/FAX 072-633-6556、090-4037-4542

武田壽夫(本山寺山の森) ☎090-2042-9101

田島聖子(東おたふく山) ☎078-411-3837

締切：開催日の2週間前まで

「山行ひろば」開催案内

♪交流の輪をひろげましょう♪

山行ひろば案内

11月29日(水) 支部ルーム19:30～21:00

夏の韓国沢登りは台風のため中止しました。来年5月ゴールデンウィークの台湾の沢登りのキックオフをします。興味のある方はご参加下さい。

ズーム参加される方は茂木にご連絡下さい。

山行ひろば報告

5月31日(水) 出席者22名

ルーム：小阪健一郎、茂木完治、豊田哲也、辻和雄、今宿瑛三郎、小黒節郎、柴田美生子、鷺本晴香、見学者2名

ズーム：吉村恵利、上森文子、中久保忠伸、坂本明子、竹中雅幸、立野里織、関戸京子、井川浩彰、寺田昭弘、野村康、会員外2名

特別編集 秋山 2023

五感で感じる山の秋

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

モンベルクラブ入会キャンペーン

岳人年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

さらに

モンベルクラブ
会員さまには

モンベル
ポイント

5,000P プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで、現在年間購読中の方は、次回継続時に5,000ポイントをプレゼントします。



価格:1,100円(税込)

年間購読のお申し込みはこちらから!>>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。



HydraPak

シーカー2L

税込 ¥3,850

- わずか76gの2Lのソフトな水筒。
- 耐久性に優れた素材で丈夫。
- オプションパーツも豊富。

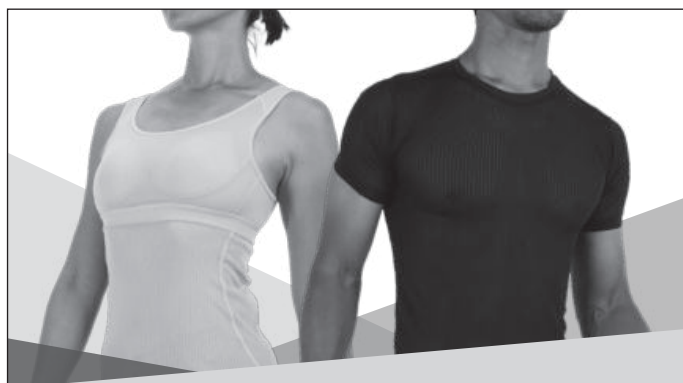


▲量めばとてもコンパクトになります。

▲収納袋が付属

輸入元: (株)ケンコー社 TEL: 06-6374-2788

※カタログをご希望の方は、弊社までご連絡くださいませ。



この1枚が、登山を変える。

DRY LAYER®

finetrack®

ドライレイヤー 検索

〈編集後記〉

☆今年の夏山は、観光客の登る富士山は論外としても、全国の山で体調不良による転滑落や骨折、行動不能による救助などが相次ぎました。9月初旬現在、まだその傾向は続いています。高齢者の滑落も目立ちました。「体力不足」「自分の技術・体力に見合った山に登っていない」ということに尽きますが、猛暑も少なからず関係していると思われます。「猛暑の夏」が、「例年の夏」になるのだとすれば、それを念頭に登山する時代に入ったのかもしれない。(加藤)

第193号 2023(令和5)年9月10日 発行

発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22

梅田東ビル 3階 304号室

公益社団法人 日本山岳会関西支部

e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

郵便振替口座 00930-6-55950

発行者 水谷 透

編集 加藤芳樹 坂田洋子 中村三佳

制作 株式会社 双陽社 大阪市北区堂島2-2-28



私たちは
人と自然をつなぐ道具を
提案します。

IWATANI-PRIMUS

イワタニ・プリムス株式会社

www.iwatani-primus.co.jp

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-12-20